

にほんじん 日本人にきらわれる がいこくじん 外国人のこうどう20せん

URL: <https://youtu.be/YzbBE0PkbeU>

こんかい にはほんじん がいこくじん まな にはほんご
今回は「日本人にきらわれる外国人のこうどう20せん」を学びながら、日本
語をべんきょうしましょう。
このどうがは、ぜんはんは少しゆっくりのスピードで、かんじにはふりがなが
あります。
こうはんは少しだけはやく（+20%）なり、かんじにふりがなはありません。
がくしゅうにおやくだてください。

じこ しょうかい ■自己紹介

こんにちは。
ワン・メイリンといいます。
にほん だいす たいわんじん
日本が大好きな台湾人です。
わたし いま
私は今、30さいです。
かあ にはほんじん とう たいわんじん
お母さんは日本人で、お父さんは台湾人です。
とう しごと ねん たいわん にはほん
お父さんの仕事のかんけいで、5年おきくらいに台湾と日本でくらしています。
きょう おな がいこくじん にはほん がいこくじん
今日は、みなさんと同じ外国人というたちばで「日本人がきらいな外国人のこ
うどう」というテーマでべんきょうしていきましょう。

にはほんじん むかし まも
日本人は昔からルールを守るしゅうかんがあります。
わたし にはほん がいこく い くに
私は、日本にかぎらず、外国に行くときはなるべくその国のしゅうかんやルー
ルをそんちょうしたいと考えています。
きつと みな
きっと、皆さんもそうですね？
けど、にほん
けど、日本はそれがなかなかむずかしいところがあります。
にはほん たいにん はな すく がいこくじん
なぜなら、日本人は他人ときがるに話すことは少ないからです。それが外国人
であればなおさらです。あまりちゅういされることはありません。これは「ち
ゅういしてもらえない」といういみです。
ちゅういされたりおこられたりしないから、わるいことはしていないと思わな
いください。おも

日本人は、何も言わないかもしれませんが、本当はイヤだと思っていることがたくさんあります。

そういうことは、友だちやかぞくでもない日本人から教えてもらえることは少ないです。

だから私がこのどうがでみなさんにお伝えできればいいなと思っています。

それではさっそく「日本人がきらいな外国人のこうどう20せん」を始めていきましよう。

■電車やバスで電話をする

日本以外の多くの国では、電車やバスの中で電話をしてもおこられることはありません。台湾でも電車やバスの中でみんな電話をしています。きっと、あなたの国でもそうだと思います。けど、日本では電車やバスの中で電話をすることはいけないことです。私はこれを初めて知ったとき「電車やバスの中で近くの人と会話をするのと何も変わらないのに、なんで電話はダメなのかな」と思いました。とくにルールが決められていなくても、日本人は公共の場所ですわがしくすることをきらいます。すぐ近くにいる人と話すより、電話のほうが声が大きくなりがちだから電話はダメなのかもしれません。たとえば、とても大きな声で電話で話す人がいたら、「声が大きいので、もっと小さな声で話してください」とちゅういする人がいるかもしれません。ちゅういされた人がそれにおこって、電車やバスの中でケンカになるかもしれません。だから、てつどう会社はそういうトラブルがおきないように「電車やバスでは電話で話さないこと」というルールを決めました。

あなたや私が、電車やバスで電話をすることが良いことだと思うかわるいことだと思うかはあまりかんけいありません。日本ではそういうルールがあって、ルールがあるなら守らないといけないということを覚えておきましょう。

■バスや電車の中でリュックをせおったまま立つ

多くの国では、リュックをせおったまま電車やバスに乗るのはふつうのことかもしれません。台湾でも、リュックをせおったまま電車にのる人はたくさんいます。しかし、日本では少しちがいます。バスや電車がこんでいるとき、リュックをせおったまま立っていると、うしろの人にぶつかってしまうことがあります。リュックが大きいと、まわりの人がめいわくに感じることもあります。とくにラッシュアワーのじかんたいは、みんながぎゅうぎゅうづめで、できるだけ場所をとらないようにしなければなりません。

はじめてこれを知ったとき、私はこれがもんだいになるとは思いませんでした。
台湾で同じことをしてもだれも気にしないからです。けど、日本に住んでいる
友だちに「リュックを前にかかえるほうがいいよ」と教えられてから、日本人
がこのこうどうをどう思うのかをりかいするようになりました。電車やバスの中
でリュックをせおったままだと、うしろの人がおされたり、場所をとられて
ふかいに思うことがあるのです。

また、リュックを前にかかえずに、うしろにせおうことで自分のリュックがま
わりの人たちにどのようなえいきょうをあたえているか見えづらくなるという
のがポイントです。

日本では、バスや電車にのるとき、リュックを前に抱えるか、あしもとにおく
のがマナーとされています。これは、まわりの人にめいわくをかけないため
です。日本では「まわりの人を思いやる」ことがとても大切です。リュックを持
ちはこぶときも、少し気をつけてみましょう。これだけで、他の人にいいい
しょうを与えられるはずですよ。

■病気の時にマスクをしない

日本では、かぜやインフルエンザなどでせきやくしゃみが出るときにマスクを
するのがふつうです。これにはりゆうがあります。せきやくしゃみでウイルス
が広がるのをふせぐためです。とくに冬のさむいきせつは、マスクをつけてい
る人がとても多いです。これは、自分のけんこうを守るだけでなく、他の人
への思いやりでもあります。

私が台湾に住んでいるときは、あまりマスクをつけるしゅうかんがありません
でした。けど、日本に住むようになって、「かぜをひいているときはマスクを
つけなければ失礼になる」と友だちから教えてもらいました。日本では、とく
にしごとばや学校、電車など人が多い場所でマスクをしていないと、「この人
はまわりの人のことを考えていない」と思われることがあります。

また、日本ではマスクをつけることがけんこう以外にもやくだつと言われてい
ます。たとえば、かふんしょうをふせいだり、空気がかんそうしているときに
ノドを守ったりするために使われています。そのため、病気でなくてもマスク
をつける人が多いです。

もしかしたら、お住まいの国やちいきによっては、マスクは顔をかくしたいは
んざいしゃがするものというイメージをもっている人もいるかもしれません。
けど、日本では病気の時にマスクをつけるのはマナーです。日本にいるとき
にたいちょうをくずしたら、マスクをつけることをおすすめします。それだけ
で、まわりの人からのいんしょうが良くなりますよ。

■おんせんでタオルをゆぶねに入れる

日本のみりよくのひとつにおんせんの文化があります。けど、日本のおんせんには、守るべきマナーがあります。中でも、タオルをゆぶねに入れるのはマナーいはずです。日本では、ゆぶねはみんなで使う場所なので、きれいに使うことが大切だと考えられています。タオルをゆぶねに入ると、タオルについているあせやよごれがゆぶねに広がるかもしれないのでいやがられます。私が日本のおんせんに行ったとき、タオルをどうしたらいいかわからずこまりました。日本人の友だちが「タオルはゆぶねに入れず、体をかくすために使うならゆぶねの外で使ってね」と教えてくれました。それからは、タオルはゆぶねに入れず、ゆぶねの外においたり、あたまにのせたりするようにしています。日本では、ゆぶねは体をきれいに洗ったあとに入る場所です。まず体をしっかり洗ってから、タオルはゆぶねに入れないようにしましょう。そうすれば、まわりの人もきもち良くおんせんを楽しむことができます。

おんせんはリラックスする場所ですが、マナーを守ることで日本人のおんせん文化をよりふかくりかひできると思います。タオルをゆぶねに入れないよう気をつけて、日本のすばらしいおんせんを楽しんでくださいね。

■やたいなどでクレジットカードを使おうとする

さいきんでは、日本でもキャッシュレスけっさいが増えていますが、やたいや小さなお店ではまだ現金しか使えないことが多いです。外国ではクレジットカードや電子マネーがどこでも使えるのがふつうかもしれませんが、日本ではやたいや小さなお店ではげんきんしか使えないことも多いです。

小さなお店でクレジットカードが使えないりゆうはいくつかありますが、もっとも大きなりゆうはお店がわのてすうりょうです。

たとえば、1,000円の商品が売れたとき、クレジットカードが使われると3%などのてすうりょうが発生します。

この3%はお店がカード会社に支払いをします。

つまり、お店はげんきんだと1,000円もらえますが、クレジットカードだと970円しかもらえないことになります。

くわえて、お店でクレジットカードを使えるようにするためにはけっさいてすうりょうとはべつにかめいきんというものをお店がわが支払わなければなりません。

小さなお店では、そういうてすうりょうを支払うことがたいへんなので、げんきんしか使えないことが多いです。

夏のおまつりや花火大会などのやたいもげんきんしか使えません。
台湾には「夜市」という文化があり、夜市もげんきんを使うので、台湾人の私はあまりこまりませんでした。

けど、小さなお店でもキャッシュレスけっさいがあたりまえの国の人が日本におとずれるときは日本のげんきんを少し持っていたほうがべんりだと思います。

■かいだんやエスカレーターで急に立ち止まる（人の流れを止める）

日本では、かいだんやエスカレーターで急に立ち止まることは、まわりの人にとってめいわくになることがあります。とくに、つうきんじかんやたくさんの人がある場所では、人の流れをさまたげるこういとしていやがられることが多いです。日本人はれつをつくってスムーズに動くことを大切に考えているため、立ち止まるこうどうが全体のリズムをみだしてしまうからです。

私も初めて日本に来たとき、エスカレーターで急に立ち止まり、うしろの人にぶつかられてしまいました。そのとき、日本人の友だちに「急に止まるのは危ないし、めいわくだから気をつけて」と教えてもらい、少しはずかしい思いをしました。

とくに日本のエスカレーターでは、かんとうでは左がわに立ち、右がわを歩く人のために空けるというルールがあります。かんさいではぎゃくで、右がわに立ち、左がわを空けます。これを知らずにどちらを空けるかまちがえて立ってしまうと、うしろの人たちがイライラすることもあります。

かいだんやエスカレーターでは、まわりの人の動きをよく見て、自分のこうどうがじゃまにならないようにちゅういすることが大切です。急に止まるひつようがある場合は、はしによって他の人のじゃまにならないようにしましょう。これをいしきするだけで、日本でのいどうがもっとスムーズになりますよ。

■きき手のはんたいの手をテーブルの下において食べる

「きき手」というのは自分がよく使う手のことです。私は右手をよく使うので右ききです。

多くの国では、食事しているときに片手だけを使うことがふつうかもしれません。しかし、日本では、食事しているとき両手をテーブルの上に出しておくのがマナーとされています。

きき手ではしやフォークを持ち、もう片方の手でおわんやおさを支えるのが日本の食事のスタイルです。

はんたいの手をテーブルの下において食べていると、「食事のマナーがわるい」と思われることがあります。

私も日本に来たばかりのころ、このしゅうかんを知らずに片手で食べていました。そのとき、日本人の友だちから「両手を使うのがマナーだよ」と教えてもらい、びっくりしました。台湾では片手で食べることがとくにもんだいしされないで、日本の食事マナーのちがいを知る良いきっかけになりました。日本では、たとえばお米が入ったちゃんやみそ汁のおわんを手にとって食べることがいっぱんてきです。そのとき、片手でおわんを持ち、もう片方の手ではしを使います。このように両手を使うことで、食べものがこぼれにくくなり、きれいに食べることができるというりゆうもあります。日本で食事をするときは、両手を使い、はんたいの手をテーブルの上に出して食べるように心がけてみましょう。それだけで、日本人から「この人はマナーを知っている」と思ってもらえるかもしれません。

■公共の場でしゃがむ

日本では、公共の場でしゃがむことは、あまりよいこととは思われていません。特に、えきやまちなかでしゃがみこむと、「つかれているのかな」と思われることもあります。それより「めいわくだな」と感じる人が多いです。道や建物のつうろでしゃがむと、ほかの人の通行をじゃましてしまうからです。私も台湾に住んでいたときは、友だちと外でしゃがみながらおしゃべりすることがよくありました。でも、日本に来てから、それがあまりよくないこうどうだと気づきました。ある日、えきのホームでしゃがんでスマートフォンを見ていると、日本人の友だちに「立ったほうがいいよ」とちゅういされました。そのとき初めて、「しゃがむことがめいわくになることもあるんだな」と知りました。とくに、えきのホームやにぎやかな歩道でしゃがみこむと、まわりの人がよけるひつようがあり、ふべんをかけてしまいます。また、日本では「つかれているならすわれる場所をさがすべきだ」という考え方がふつうです。公園のベンチやカフェなど、しゃがむかわりにすわれる場所をさがすのがマナーです。日本で公共のばにいるときは、なるべくしゃがまないようにしましょう。それだけで、まわりの人にめいわくをかけず、よいイメージを持たれるでしょう。もしつかれているなら、まわりにすわれる場所をさがしてみてくださいね。

■列にならんでとなりの人に話しかける

日本では、列にならんでいるときにとなりの人に話しかけることは、あまりよいこととは思われていません。日本の人は、列にならんでいるとき、しずかにまつことを大切にしています。また、知らない人に話しかけられることにあまりなれていないことも、りゆうのひとつです。そのため、列にならびながらとなりの人に話しかけると、びっくりされたり、こまったかおをされることがあります。

私が日本で初めて列にならんだとき、前の人に「このお店はにんきなんですか？」と聞きました。その人は、ちょっとおどろいたかおをして、少しだけこたえてくれました。でも、それいじょうは会話がつづきませんでした。そのとき、「日本では、知らない人と話すことがふつうではないんだな」とわかりました。日本では、列にならぶときのルールはとてもかんたんです。「しずかにまつこと」です。とくに、びょういんやとしょかん、電車のきっぷ売り場など、しずかな場所では話しかけることがめいわくだと思われることがあります。一方で、テーマパークやおまつりのようなにぎやかな場所では、少しだけ話すくらいなら、もんだいないこともあります。でも、それでもたくさん話しかけることはさけたほうがいいでしょう。

日本で列にならぶときは、しずかにじゅんばんをまつことをきにしてみてください。それだけで、まわりの人に「マナーをまもる人だな」と思ってもらえるはずです。もし話したいことがあるなら、ともだちやかぞくと話すようにしましょう。

■つよいこうすいをつける

日本では、つよいこうすいのおいがきらいな人がたくさんいます。とくに、電車やバスなどのせまいばしょでは、こうすいのおいがまわりの人にとってめいわくになることがあります。日本の人は、うすいにおいをこのむことが多く、こうすいをつけるときでも、ほんの少しだけにするのがよいとされています。

わたしも、日本に来たばかりのころは、いつも使っているこうすいをそのままつけていました。でも、電車の中で近くにいた人がかおをしかめているのを見て、「もしかして、わたしのこうすいがつよすぎるのかな？」と思いました。そのあと、日本人のともだちに聞いたら、「日本ではつよいにおいはめいわくだと思われることがあるよ」と教えてくれました。それからは、こうすいをすこしだけつけるようにしています。

日本では、こうすいのかわりに、むこうりょうのせっけんや、やさしいにおいのせっけんを使う人も多いです。また、会社や学校などでは、こうすいをつけない人もたくさんいます。とくに、においで気分がわるくなる人もいるので、こうすいのつかいかたにはちゅういがひつようです。

こうすいをつけるときは、まわりの人^{ひと}にめいわくをかけないくらい^{すく}の少ないりょうにしましょう。日本^{にほん}では、「ひかえめ」がだいじにされているので、こうすいもうすくつけるくらいがちょうどいいです。それだけで、まわりの人^{ひと}と良いかんけいをたもてるでしょう。

■音^{おと}をたてて食事^{しょくじ}をする

日本^{にほん}では、食事^{しょくじ}のときに口^{くち}をしめずにおとをたてて食^たべることは、マナーが良くない^よとされています。たとえば、ガムやおかしを食^たべるときに「くちゃくちゃ」と音^{おと}をたてたり、のみものをのむときに「ごくごく」という音^{おと}がすると、まわりの人^{ひと}がいやなきもちになることがあります。

わたしも、台湾^{たいわん}でかぞくと食^たべているときは、あまり音^{おと}を気^きにしていませんでした。でも、日本^{にほん}で食^たべるようになり、友だちに「音をたてないようにしたほうがいいよ」と教^{おし}えてもらってから、気^きをつけるようになりました。

それからは、口^{くち}をしめてしずかに食^たべることを心がけています。

ただ、日本^{にほん}ではラーメンやそばを食^たべるとき、「ズズッ」とすすする音^{おと}はだいじょうぶです。これは、あつい食^たべものをさましながら食^たべるため、むしろふつうのこととされています。日本^{にほん}で食事^{しょくじ}をするときは、できるだけしずかにたべることを気^きにしてみてください。そうすれば、まわりの人^{ひと}をいやなきもちにさせずに、楽^{たの}しく食^たべることができます。そして、ラーメンやそばをたべるときは、「ズズッ」とすすすることをためしてみてもいいですよ！

でも、台湾^{たいわん}にいるとき、日本人^{にほんじん}のかんこうきゃくがめんを「ズズッ」とすすするのを見ると、「音をたてて食^たべているなあ」とちょっと気^きになることもあります。台湾^{たいわん}では、めんをたべるときにあまり音^{おと}をたてないからです。

国^{くに}によって、たべもののたべかたやマナーがちがうことが、よくわかりますね。

■うしろの人^{ひと}を気^きにせずかさを持ち歩^もく

日本^{にほん}では、雨^{あめ}の日にかさを使うときや持^{つか}ち歩^もくとき、まわりの人^{ひと}に気^きをつかうことがマナーとされています。とくに、電車^{でんしゃ}やバスの中^{なか}、こんでいるみちでは、かさのさきがうしろの人^{ひと}にあたらないようにすることがたいせつです。かさがぬれていると、まわりの人^{ひと}のふくやかばんをよごしてしまうこともあります。私が日本^{にほん}に住^すみはじめたころ、雨^{あめ}の日にぬれたかさをふつうに持^もちあるいていました。でも、電車^{でんしゃ}の中^{なか}でともだちから「ぬれたかさはカバーにいれるか、あしもとにおいておくといいよ」と教^{おし}えてもらいました。それからは、かさを持^もつときは、うしろやよこの人^{ひと}にあたらないように気^きをつけるようになりました。

また、もっともあぶないのは、大人が持つかさのたかさが、ちいさい子どものかおやめの高さになることです。これでケガをすることもあるので、とてもちゅういがひつようです。

日本では、えきやお店でかさをいれるビニールぶくろがタダでもらえることが多いです。これを使ってぬれたかさをおおおうのがふつうです。また、歩くときも、かさをできるだけたてに持つことで、まわりの人にあたらないようにしています。

雨の日に日本を歩くときは、かさの使いかたにも少し気をつけてみてください。ぬれたかさをそのまま持ち歩くのではなく、カバーに入れたり、じぶんの近くであつかうことで、まわりの人への思いやりを見せることができます。それだけで、「気をつかえる人だな」とまわりの人に良いイメージをあたえることができるでしょう。

■トイレのドアをしっかりとしめる

日本では、トイレを使っているときも、使っていないときも、ドアをしっかりとしめることがとても大切なマナーとされています。ドアが半分ひらいていたり、きちんとしていないなかったりすると、まわりの人が「このトイレは使えるのかな?」「だれかが使っているのかな?」と迷ってしまいます。それだけでなく、ドアがあいていることで、気まずいきもちになったり、ふかいにかんじる人もいるかもしれません。そのため、日本では、トイレを使うときや使い終わったあとに、ドアがちゃんとしまっているかをかくにんすることがマナーとされています。

とくに、公共のトイレでは、ドアをきちんとしめることで、自分のプライバシーを守れるだけでなく、まわりの人にもあんしんかんをあたえることができます。トイレを使っているときは、ドアにカギをかけることがあたりまえです。日本の多くのトイレでは、ドアのカギをかけると「使用中」や「あいています」と表示されるしくみになっています。この表示があることで、ほかの人はトイレが使えるかどうか一目でわかるので、カギをしめることがとてもじゅうようです。

また、トイレを使い終わったあとも、ドアをしめておくのがふつうです。ドアがあいたままだと、次に使おうとする人が気まずくなったり、トイレが使われているのか空いているのかわからずこまってしまいます。

台湾では、使っていないトイレのドアをあけておくことが多いので、日本のこうしたしゅうかんになれるのには少しじかんがかかりました。ですが、日本で生活するようになり、このルールの大切さがよくわかりました。ドアをしっかりしめるだけで、まわりの人に気をつかうことができ、かいてきなくうかんをつくることができます。

トイレを使うときは、使っている間はもちろん、使い終わったあともドアがきちんとしてしまっているかをかくにんしましょう。それだけで、ほかの人もきちよくトイレを使うことができるようになりますよ。

■しずかな場所ですわぐ

日本では、としょかんやびじゅつかん、びょういん、電車の中など、しずかにすごすべきばしょですわぐことは、マナーがよくないとされています。こういったばしょでは、ほかの人がべんきょうしたり、休んだりしているため、しずかにすることが大切です。また、カフェやレストランなどでも、まわりの人がしずかにしているときは、声を小さくして話すのがマナーです。

私がはじめて日本のとしょかんに行ったとき、友だちと少し大きな声で話してしまい、としょかんの人から「しずかにしてください」とちゅういされました。台湾では、としょかんですこしくらい話すことはふつうなので、そのときはとてもびっくりしました。でも、日本では「しずかなばしょでは音をたてないこと」がとても大切だとそのとき学びました。

とくに、子どもが大声を出したり走ったりしていると、おやがすぐにちゅういしないと、まわりの人にきびしい目で見られることがあります。日本では、子どもがさわぐと、親がきちんとちゅういするべきだと考えられています。台湾では、子どもが泣いたりさわいだりしても、まわりの人が気にしないことが多いので、このちがいにおどろきました。

しずかな場所では、自分のこうどうがほかの人にどんなえいきょうをあたえるかを考えることが大切です。声を小さくしたり、どうしても声を出すひつようがあるときは、場所をうつったりするようにしましょう。こうすることで、日本のしずかさを大切にす文化にうまくなじむことができますよ。

■食事をのこす

日本では、食事をのこすことはあまりよくないことだと考えられています。とくに、食べものをつくってくれた人やお店の人にとって、食事をのこされるのは失礼だと思われることがあります。「食べものを大切にする」という考え方が日本にはふかくなづいていて、食事をのこすことは「かんしゃのきもちがたりない」と見られることもあります。

わたし にもん き 私にも日本に来たばかりのころは、おなかがいっぱいになると、少しだけ食べのこしてしまうことがありました。でも、日本人の友だちに「ぜんぶ食べるのがマナーだよ」と教えられてから、注文するりょうをへらしたり、少しずつ食べたりして、のこさないように気をつけるようになりました。

日本では、外食をするときは、自分が食べきれりょうを注文するのがきほんです。また、家庭やお弁当でも、食事をのこさないように気をつけることがたいせつです。さいきんでは、「食品ロス」をへらすために、食べものをムダにしないことがさらに大事なことだとされています。

どうしても食べきれないときは、お店で「もちかえり（テイクアウト）」ができるか聞いてみるのもいい方法です。ただし、おさしみなどの生ものやいくつかの料理は、もちかえりができないことがあります。そのりゆうは、食品の安全を守るためです。きおんやほぞんの仕方によって、もちかえった食べものがくさってしまうこともあるので、ちゅういがひつようです。このことを知ったとき、私は「たしかにそのとおりだ」となっとくしました。

台湾では、食べきれなかったりょうりをパックにいれてもらうことがふつうですが、日本では食品の安全を大事に考えているため、もちかえりをさせないお店も多いです。また、国や宗教によっては、食事をすべて食べきらずに、神さまのために少しだけのこすというしゅうかんがあることもあります。ですが、日本では、出された食事をすべて食べることがよいことだとされています。このことをおぼえておくと、日本での食事をより楽しむことができるでしょう。日本で食事をするときは、「食べものをムダにしない」という気もちを大切にしてみてください。それだけで、まわりの日本人から「しっかりマナーを守れる人だ」と良いイメージをもたれるはずですよ。

■人をまたせる（じかんを守らない）

日本では、じかんを守ることがとても大切だとされています。やくそくのじかんにおくれると、あいてに失礼だと思われることが多いです。日本の人はじかにきびしく、たとえ数分おくれただけでも「またされた」とかんじる人がいます。そのため、よていより早くつくことが、よいイメージをあたえることもあります。

私も、日本人の友だちとのやくそくに5分おくれたことがありました。そのとき、友だちはとくにおこりませんでしたが、「これからじかんにゆとりをもってやるようにするといいよ」とやさしく教えてくれました。それらい、わたしはやくそくのじかんの10分前にはつくように気をつけています。

日本では、まちあわせだけでなく、仕事や学校でもじかんを守ることがとても大切です。日本の電車やバスはじかんがとてもせいかくなので、それをもとにスケジュールを立てやすいです。それでも、ちこくしてしまうと「あいてをたいせつにしていない人」や「しんらいできない人」と思われることがあるので、ちゅういがひつようです。

もしじかんにおくれそうなときは、できるだけ早くあいてにれんらくをすることがたいせつです。それだけで、あいてのふまんを少しでもやわらげることができます。おくれたときは「申しわけありません」と、あいてにきもちをつたえることも忘れないようにしましょう。

日本では、「じかんを守めることは、あいてをたいせつにすること」と考えられています。そのため、じかんにせいかくであることを心がけてみてください。それだけで、まわりの人から「しんらいできる人だ」と思ってもらえるようになるでしょう。また、じかんを守ること、自分自身もよゆうをもってこうどうできるようになり、毎日がもっと楽しくなるはずです。

■くつをはいたまま家の中に入る

日本では、家に入るときにくつをぬぐのがあたりまえとされています。くつをはいたまま家に入ると、ゆかやたたみをよごしてしまうため、とても失礼だと考えられています。げんかんでくつをぬぐことは、家をきれいにたもつだけでなく、その家に住んでいる人へのれいぎでもあります。

私がはじめて日本人の友だちの家に行ったとき、うっかりくつをはいたままげんかんをあがりそうになりました。そのとき、友だちがすぐに止めてくれたので大丈夫でしたが、とてもはずかしいおもいをしました。それ以来、日本ではくつをぬぐしゅうかんをいしきするようになりました。

日本の家では、げんかんでくつをぬぎ、そろえておくのがマナーです。くつをぬいだあとは、スリッパをはいて家の中を歩くのがふつうです。とくに、たたみのへやでは、スリッパもぬいで足をじかにたたみにおくのがしぜんです。

日本に住んだり、旅行でおとずれるときは、家に入るときにくつをぬぐしゅうかんを守るようにしましょう。また、家の中でくつをぬいだとき、くつしたがいかがかを前もってかくにんしておくとうあんです。日本人は、こうした小さなところにも気をつける人をとても高くひょうかします。そのため、くつをぬいだり、きちんとそろえたりするだけで、日本人から「マナーをわかってるな」と思われることがふえます。

日本では、げんかんでくつをぬぐことが、その家やかぞくへのそんけいをあらわすひとつの方法でもあります。このしゅうかんを大切にすることで、日本の文化にしぜんになじむことができるでしょう。

■店員にえらそうなたいどをとる

日本では、お店の店員にたいしてていねいにせつすることがとても大切です。店員さんは「おきゃくさんにサービスをする人」として仕事をしていますが、それはえらいとか、えらくないとかではなく、たがいにたいとうな立場でのやりとりです。そのため、えらそうなたいどをとると、まわりの人にもわるいイメージをあたえてしまいます。

私も、むかしは台湾の感覚で店員さんにカジュアルに話しかけたことがありました。でも、日本ではそのたいどが「失礼だ」と思われることがあると知ってから、ていねいなことばをつかうように気をつけています。

たとえば、店員さんがまちがいをしても、おこったりきつい言い方をしたりしないようにしましょう。日本では、かんしゃやていねいなことばがとても大切にされています。なにかをたのむときには「おねがいします」、おれいを言うときには「ありがとうございます」と言うだけで、良いイメージをあたえることができます。

店員さんへのたいどは、その人の人からをあらわすとも言われています。日本でかいものや外食をするときには、店員さんにたいしてそんけいをもったたいどでせつするようにしましょう。そうすれば、自分もきもち良くすごすことができ、まわりの日本の人からも「いい人だな」と思ってもらえるでしょう。日本では、店員さんも大事な人との出会いのひとつと考える文化があります。

■車をうんてんするときに無理なわりこみをする

日本では、どうろでのうんてんマナーがとても大切にされています。とくに、無理なわりこみをするのは、「あぶなくてめいわくなこうどう」として、多くの人にきらわれます。交通ルールを守るのはもちろんですが、まわりの車をうんてんしている人や歩いている人への思いやりをもったうんてんがひつようです。

私は台湾でうんてんしていたとき、わりこみはそれほど大きなもんだいだとは思っていませんでした。でも、日本でうんてんをするようになってから、無理なわりこみや急に車線を変えることがまわりの人にストレスをあたえるこうどうだとわかりました。一度、日本人の友だちを車にのせたときに、急なわりこみをしてしまい、「もっとしんちょうにうんてんしたほうがいいよ」とちゅういされたことがあります。そのとき、とてもはずかしい思いをしました。

日本では、車線を変えるときやまがるときに、ウィンカーを早めに出してまわりの車に「どこに行くのか」をつたえることが大切です。また、ほかの車がゆずってくれたときには、ハザードランプをつけて「ありがとう」のきもちをあらわすのがふつうです。このような小さな気づきですが、日本の安全でなめらかな交通をつくるためにとてもたいせつだとされています。

私は、ゆずってもらったときにハザードランプでかんしゃのきもちをしめす文化を知ったとき、「日本人はなんてれいぎ正しいのだろう」とかんしんしました。台湾ではそのようなしゅうかんはありませんが、日本のうんてんのマナーにふれて、もっと気をつけるようになりました。

日本で車をうんてんするときは、たとえ急いでいるときでも、ほかの車や歩いている人を思いやり、しんちょうにうんてんすることを心がけましょう。ルールを守るだけでなく、まわりのドライバーと良いかんけいをつくることで、自分も安心してうんてんできるようになります。日本の交通マナーにしたがって、安全できもちの良いうんてんをめざしましょう！

■じゅんばんを守らずにトイレやレジにわりこむ

日本では、じゅんばんを守ることがとても大切だと考えられています。とくに、トイレやレジでのじゅんばん待ちを守らずにわりこむことは、まわりの人にわるいイメージをあたえるこうどうです。このようなこうどうは「マナーがわるい」と思われるだけでなく、ときにはケンカやトラブルのげんいんになることもあります。

私が台湾にいたころは、ときどきおじいちゃんやおばあちゃんが列にわりこんでくるのを見ても、あまり気にしていませんでした。でも、日本に来て、それが大きなマナーいはいだと知り、はじめはとてもおどろきました。ある日、こんでいるスーパーで「先にいいですか？」とたずねることなくレジにわりこんでしまったところ、うしろにいた人にちゅういされ、とてもはずかしい思いをしました。その日から、どんなに急いでいるときでも、じゅんばんを守ることがいしきするようになりました。

日本では、どれだけ急いでいる場合でも、じゅんばんを守るのがあたりまえです。どうしても急がないといけないときは、うしろの人に「すみません、急いでいるのですが」とていねいにおねがいするのがよいでしょう。でも、あいてが「いいですよ」と言ってくれなければ、わりこむのはやめるべきです。

じゅんばん待ちのルールを守ることは、ほかの人への思いやりをあらわすかどうかでもあります。日本では、このような小さなマナーをとてきたいせつにする文化があります。じゅんばんを守ることで、みんながきもちよくすごすことができ、スムーズなやりとりができますよ。

日本での生活では、こうしたマナーをいしきしてみてください。それだけで、まわりの人から「この人はしっかりマナーを知っているな」と良いイメージを持ってもらえるでしょう。じゅんばんを守ることは、自分もまわりもきもちよくする大切なルールです。

「日本人にきらわれる外国人のこうどう20せん」はいかがでしたか。
コメントであなたのかんそうをみんなに教えてください。
それでは、また別のどうがでお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI